



第42回

甲府空襲 戦争と平和・環境展

「語り継ごう 20 世紀を 創ろう 平和な 21 世紀を」

～新しい戦前をつくらないために わたしたちが考えるべきこと～

入場無料

期日 2023年7月5日(水)～11日(火)

※10日(月)は全館休館日となります。ご注意ください。

時間 AM10:00～PM6:00

5日(水)はPM2:00より

11日(火)はPM3:30まで

場所 山梨県立図書館・1階イベントスペース

入場無料

会場内展示内容

- 【甲府空襲と戦時下の生活】 ●戦時下のくらしの記録写真と当時の生活用具 ●空襲による被災の記録写真 ●甲府空襲体験記録集
- 【長く続いた戦争】 ●ヒロシマ・ナガサキの被爆実態 ●沖縄戦
- 【戦争と教育】 ●県内小中学校の平和教育 ●昔の学校 ●教科書
- 【世界の紛争】 ●紛争の歴史
- 【語り伝え・紙芝居】 ●甲府空襲・戦争体験 ●「もうひとつのたなばた」(紙芝居)
- 【折り鶴・戦争体験記】 ●ヒロシマへ、千羽鶴をおくろう
- 【環境・国際支援】 ●食の安全について ●環境リサイクル ●ユニセフ展示



若手教職員による特別企画

市民とともに平和を考える集い

日時:7月8日(土)午後2時～ 入場無料

場所:県立図書館 1階 イベントスペース特設ステージ

★若き教職員による 平和へのメッセージ

★甲府空襲大型紙芝居「もうひとつのセタ」



主催 第42回 甲府空襲 戦争と平和・環境展実行委員会

事務局 TEL055-222-1541

甲府空襲とは・・・

甲府市は、第二次世界大戦・太平洋戦争の終戦間際の1945年（昭和20年）7月6日深夜から7月7日未明にかけて、アメリカ軍の大規模な空襲を受け、一晩にして焼け野原になってしまいました。この時には、都会から戦火を逃れ避難してきていた人々も含め、直接戦争をしていない多くの一般の人々が犠牲になりました。この空襲で、死者は1,127名、負傷者1,239名、被害戸数18,094戸にのぼる大きな被害を受け、甲府市は市街地の74%（79%とも言われる）が焼きつくされ、破壊されてしまいました。（1974年（昭和49年）7月調査）

この空襲は、アメリカ軍のB-29爆撃機によるもので、131機もの飛行機から978トンもの爆弾・焼夷弾が雨のように落とされたのです。当時の甲府は、昭和の有名な作家で、甲府空襲を体験した太宰治が、著書『新樹の言葉』のなかで甲府の街を「きれいに文化のしみとおっているまちである」と表現しているように、明治時代からの西洋的な洋風建築の建物が建ち並び、小さいながらもきれいでおしゃれな街でした。

そのきれいな街並みが、一回の空襲で火の海となり多くの人々が命を落とし、住む家を焼かれ、傷つき、すべてを失ってしまったのです。この甲府空襲は、7月6日から7月7日未明にかけて発生したため、「たなばた空襲」とも呼ばれています。被害は、石和・玉穂・甲運・富士見・境川・春日居・玉幡・昭和・竜王など、甲府周辺の13町村（当時）にも及びました。

▼甲府地区の犠牲者数

地区名	犠牲者
富士川地区	74名
琢美地区	191名
相生地区	112名
新紺屋地区	16名
湯田地区	427名
穴切地区	41名
春日地区	25名
朝日地区	40名
伊勢地区	43名
貢川地区	3名
国母地区	12名
里垣地区	23名
相川地区	8名
県市外	82名
住所不明	30名
合計	1,127名

太宰と甲府空襲

「人間失格」、「走れメロス」などで知られる、日本を代表する文豪である太宰治は、今から80年以上前の昭和13年9月に甲府を訪れており、甲府空襲も経験しました。その経験を元に書かれた「薄明」という作品には、甲府空襲の様子が詳しく書かれています。図書館にお越しの際はぜひそちらの作品にもふれてみてください。

博学連携

期間中、県立図書館にご協力いただき、平和関連圖書の展示・貸し出しを行っております。ぜひご覧ください。（1階児童資料コーナー）

「声をあげよう！過ちを繰り返さないために」



今年も78年前、甲府市民を襲った戦争の痛ましい記憶を振り返る「甲府戦争と平和・環境展」を開催いたします。42回目となる今年は、「新しい戦前をつくらないために、私たちが考えるべきこと。」をサブテーマとして、改めて戦争の悲惨さを訴えています。

第2次世界大戦後日本の「二度と戦争を起こさない」との決意は、憲法第9条に強い思いが込められています。しかし、最近の動きは「専守防衛」を逸脱する傾向にあり、「憲法9条は死んだ」とまで言われています。ミサイルのスイッチ一つ押してしまえば、ウクライナに見られるとおり、一国だけでなく多くの国々が犠牲を負うこととなります。

家族を失う悲しみや、戦後復興の苦しみを繰り返さないため、危機を煽るのではなく、危機を解消する為の最大の努力こそ今必要なのではないのでしょうか。

想像力を最大限生かして、声をあげ続けましょう。

実行委員長 手塚 仁

〈主催団体〉山梨県平和センター・山梨県教職員組合
 ・自治労山梨県本部・甲府市職員組合・甲府水道労働組合・生活協同組合パルシステム山梨・女性会議県本部
 ・山梨県退職現職女性教職員の会・山梨県母と女性教職員の会・山梨退職者団体連合・全農林労働組合やまなし分会・食とみどり、水を守る山梨県民会議・山梨非核平和の旅実行委員会
 〈協賛団体〉連合山梨・環境と平和を考える県民の会

「第42回 甲府空襲 戦争と平和・環境展」開催によせて



「第42回 甲府空襲 戦争と平和・環境展」が、盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。

世界で紛争が続く中、5月に開催された広島G7サミットを契機に、平和への機運が高まるとともに、争いのない世界が訪れることを心から願うばかりであります。

本市におきましても、小中学生の作品による平和ポスター展や、平和祈念の黙とうの呼びかけなど、平和意識の醸成が図られるよう各種事業に取り組んでまいりますので、引き続き、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに本展示会のご盛會と実行委員会の皆様のご健康とご活躍を祈念申し上げ、挨拶といたします。

甲府市長 樋口雄一

〈後援〉山梨県・甲府市・山梨県教育委員会・甲府市教育委員会・山梨県PTA協議会・甲府市小中学校PTA連合会・山梨県公立小中学校校長会・甲府市公立小中学校校長会・山梨県公立小中学校教頭会・甲府市公立小中学校教頭会・青少年育成甲府市民会議・甲府市自治会連合会・山梨県女性団体協議会・甲府市女性団体連絡協議会・山梨日日新聞社・毎日新聞甲府支局・読売新聞甲府支局・朝日新聞甲府総局・テレビ山梨・山梨放送・エフエム富士・エフエム甲府・NHK甲府放送局